

第4章 学外の勉学活動・課外活動

1.学外の勉学の有無

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校又は通信教育などを利用したことがある学生は10.4%。
商学部の18.7%から工学部の2.2%まで学部間のバラつきが大。

本学入学以来、知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある学生は全体の10.4%となっています。

学部別に見ると、商学部で18.7%と最も高く、法学部（16.5%）・医学部（15.6%）の順で高くなっています。一方、工学部では2.2%と低く、学部によりバラつきが見られます。

経年変化を見ると、学外の各種学校に通ったことがある学生の比率は、平成3年度が16.3%でピーク、平成18年度まで約13%～14%台で推移、平成21年度から減少傾向が見られていましたが、平成27年度は3年前より0.6%増加しています。ただし、この増加は、平成27年度の調査票の質問文に「通信教育」を加えたことが影響しているのかもしれませんが。

図4-1 学外の勉学の有無(平成27年度全体・学部別・経年変化)

	あり	なし
平成27年度全体	10.4%	89.6%
法学部	16.5%	83.5%
文理学部	14.3%	85.7%
経済学部	13.4%	86.6%
商学部	18.7%	81.3%
芸術学部	12.9%	87.1%
国際関係学部	9.1%	90.9%
理工学部	4.6%	95.4%
生産工学部	6.9%	93.1%
工学部	2.2%	97.8%
医学部	15.6%	84.4%
歯学部	6.8%	93.2%
松戸歯学部	7.6%	92.4%
生物資源科学部	6.5%	93.5%
薬学部	6.4%	93.6%
昭和63年度	13.9%	86.1%
平成3年度	16.3%	83.7%
平成6年度	12.8%	87.2%
平成9年度	14.6%	85.4%
平成12年度	14.8%	85.2%
平成15年度	12.9%	87.1%
平成18年度	13.1%	86.9%
平成21年度	11.2%	88.8%
平成24年度	9.8%	90.2%
平成27年度	10.4%	89.6%

2.学部別 学外の勉学の有無の経年変化

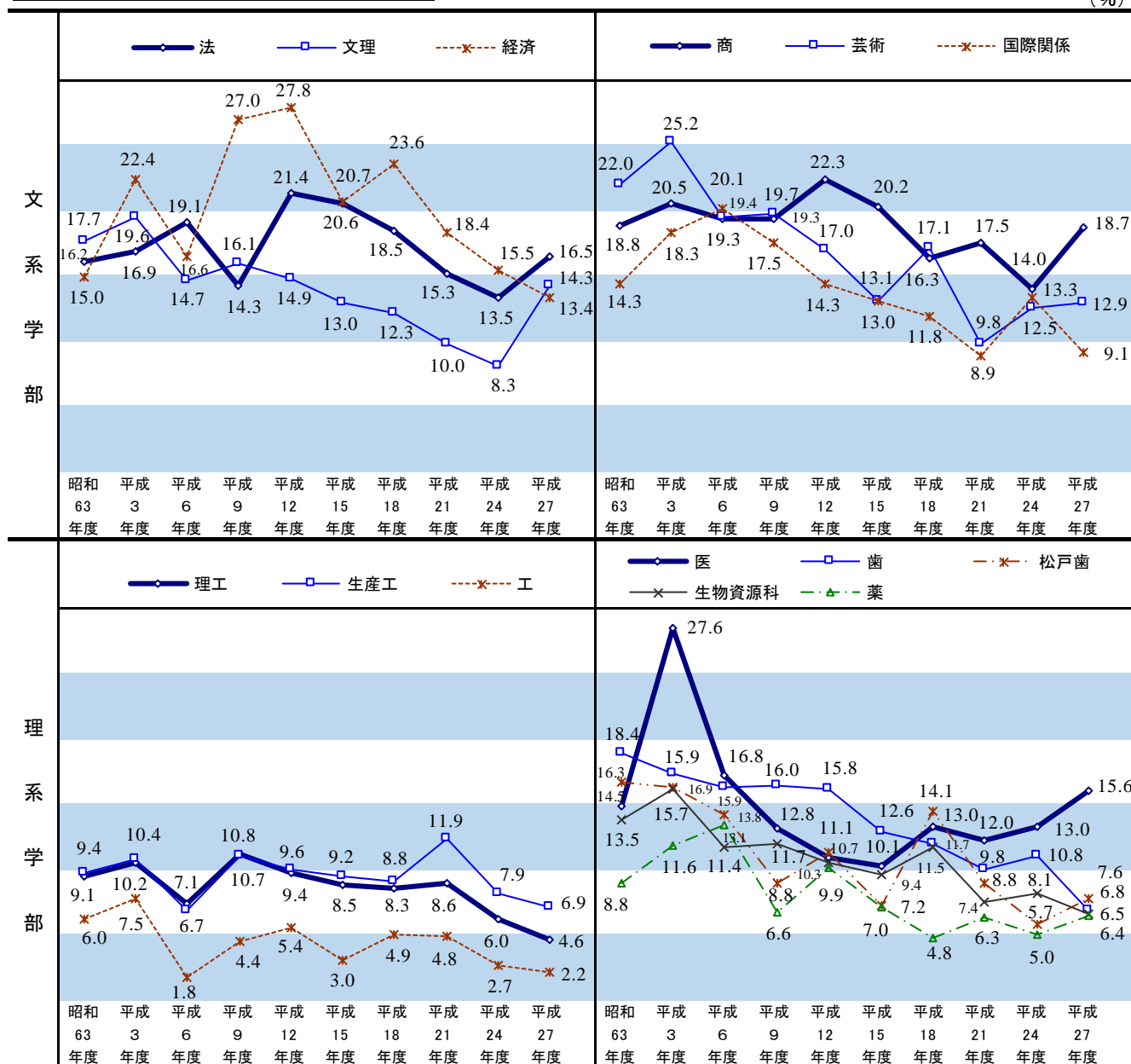
知識・技術や資格取得のための学外での勉学の減少傾向に歯止め？
勉学意欲の高まりを反映？

大学入学以来、知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある比率の学部別経年変化を見たものが下図です（但し、通信教育を加えたのは平成27年度から）。

医学部を見ると平成3年度が27.6%と突出していますが、平成15年度まで漸減傾向、その後漸増傾向に転じています。平成27年度に最も高かった商学部を見ると、平成12年度がピーク（22.3%）で以後減少傾向にありましたが、この3年間では4.7ポイント増加しています。学外の勉学の比率は、全体としては減少傾向にありましたが、直近の3年間では文理学部・商学部・法学部・医学部・薬学部・松戸歯学部・芸術学部の7学部で増加が見られます。

図4-2 学外の勉学の比率の経年変化（学部別）

(%)



3.学外の勉学の理由

学外で勉学をする理由は「資格を得たい」「授業ではもの足りない」「就職に有利」の順。経年変化を見ると、学外で勉学する学生に『授業』を意識する傾向。

学外で勉学をする理由を見ると、「資格を得たいから」が27.2%で最も高く、「大学の授業ではもの足りないから」(15.2%)、「就職に有利だから」(14.6%)が続いています。

経年変化を見ると、「大学の授業ではもの足りないから」は昭和63年度の7.7%から、「大学の授業についていくため」は平成3年度の1.1%からそれぞれ概ね漸増傾向、「技術を身につけたいから」は平成9年度の12.2%から、「趣味を深めたいから」は平成6年度の18.8%からそれぞれ概ね漸減傾向となっています。これらの傾向からも、大学の授業に対する学生の意識が高まっていることがうかがえます。

図4-3-1 学外の勉学の理由(平成27年度)

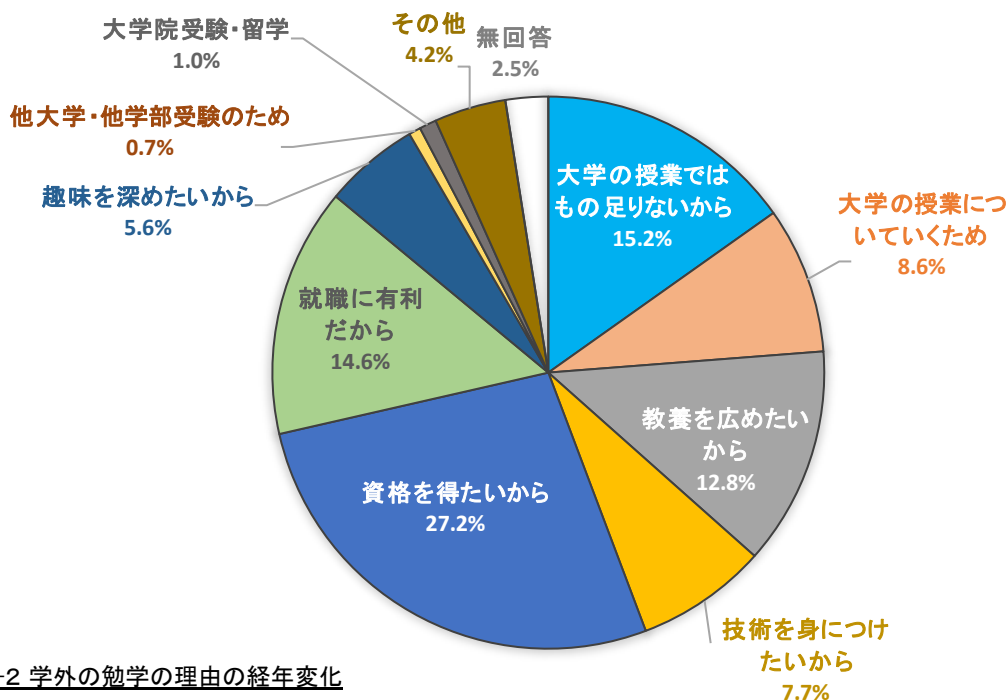
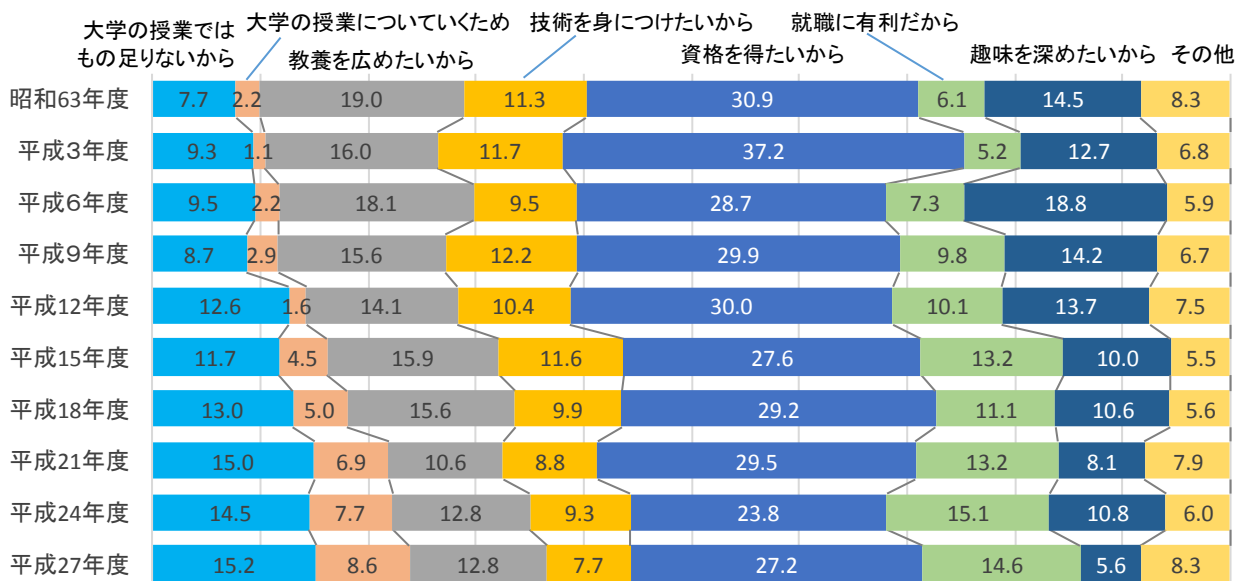


図4-3-2 学外の勉学の理由の経年変化



4.学外の各種学校等の種類

学外での勉学は「各種資格取得学校（教室）」が26.3%でトップ、平成3年度と平成21年度にピーク。「語学学校（教室）」は漸減傾向。

学外での勉学の種類について見ると、「各種資格取得学校（教室）」が26.3%で最も高く、「語学学校（教室）」（19.3%）、「各種予備校（公務員試験対策・大学院受験等）」（12.8%）が続いています。

経年変化を見ると、「各種資格取得学校（教室）」は平成3年度と平成21年度にピークがあり、増減を繰り返しています。最近の6年間では約10ポイント減少しています。「語学学校（教室）」は平成6年をピークに漸減傾向が続いています。景気の変動と連動した資格ブーム、就職を目標としたカリキュラムの改訂やリメディアル教育（補習授業）など学生指導の充実、といった内外の要因が背景にあると考えられます。

図4-4-1 学外の各種学校等の種類(平成27年度)

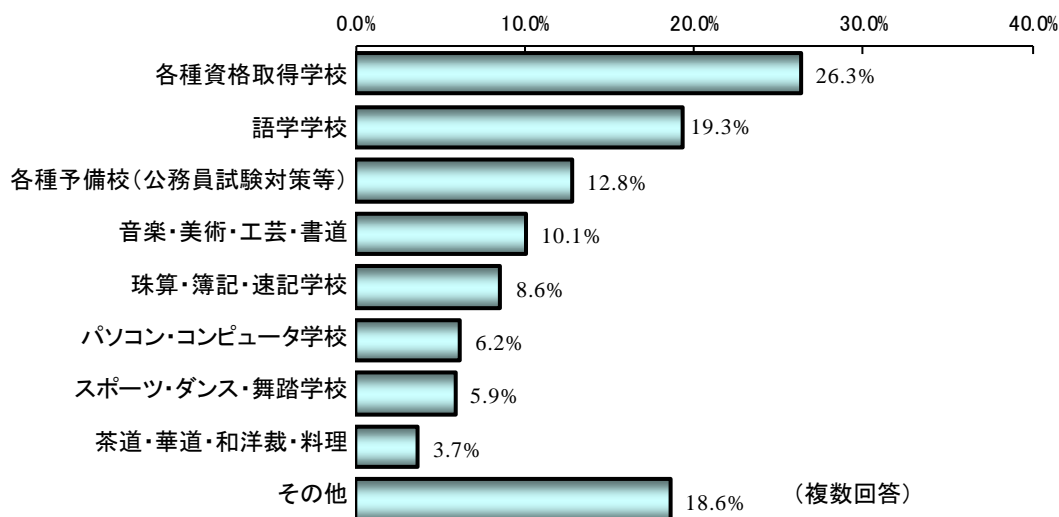
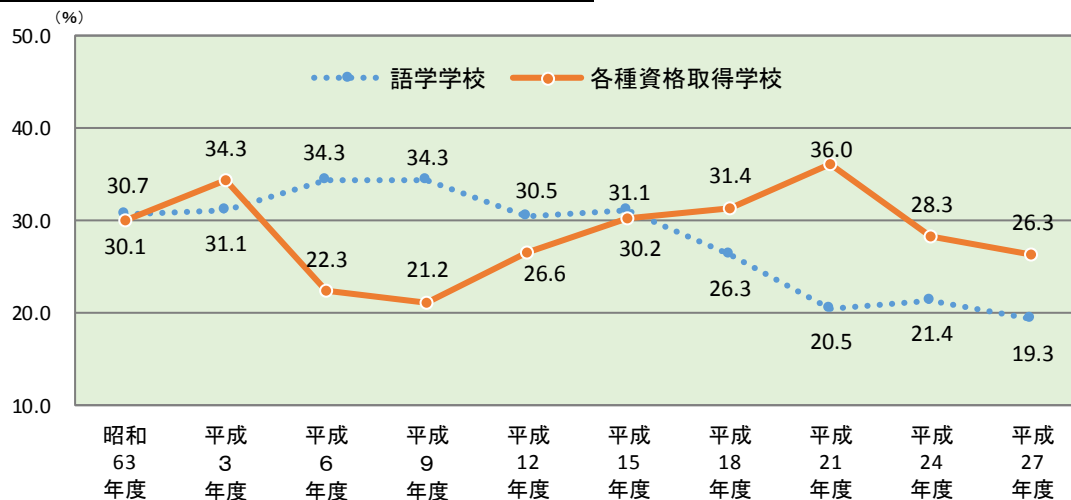


図4-4-2 学外の各種学校等の種類(上位2種)の経年変化



5.課外活動への参加状況

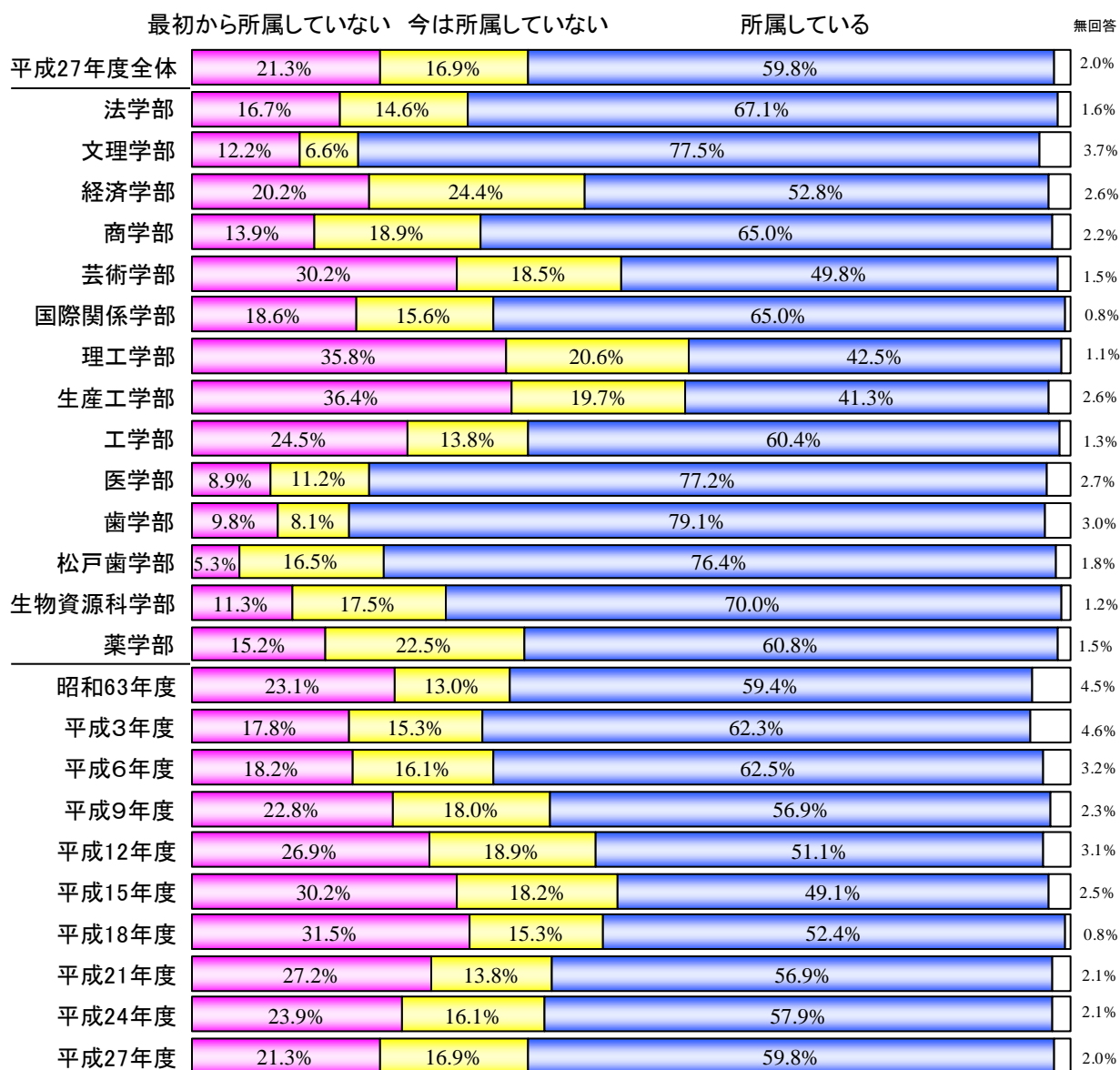
クラブ・サークルの所属率は59.8%。医歯系学部と文理学部で高く、学部間に差。
クラブ・サークル活動は近年再び活発に。

学生全体で見ると、調査時点(平成27年6月)のクラブ・サークル所属率は59.8%、「今は所属していない」が16.9%、「最初から所属していない」が21.3%となっています。

学部別に所属率を見ると、歯学部の79.1%を最高に、医歯系学部と文理学部の学生で80%弱と高い一方、生産工学部・理工学部では40%強にとどまっており、学部により大差が見られます。

経年変化を見ると、所属率は平成6年度の62.5%をピークに漸減し、平成15年度には半数を割りましたが、平成18年度から増加に転じています(平成15年度からの12年間で10.7ポイント上昇)。一方、「最初から所属していない」学生は、平成18年度の31.5%をピークに平成21年度から減少に転じ、直近の9年間で10.2ポイント減少しています。クラブ・サークル活動は近年再び活発化しているようです。

図4-5 クラブ・サークルへの参加の有無(平成27年度全体・学部別・経年変化)



6.課外活動への参加理由

クラブ・サークルへの参加理由は、人間関係の構築が主、自己実現欲求が従。人間関係については、横の広がりより縦の関係を求める傾向が出始めている。

クラブ・サークルに参加する理由を見ると「仲間がたくさんできる」(47.6%)と「先輩・後輩とのつながりができる」(44.6%)が双璧となっており、人間関係の構築が主要な理由となることが分かります。「自主的活動(やりたいこと)ができる」「趣味と実益が兼ねられる」といった自己実現欲求がそれぞれ20%弱となっています。

医歯系学部では、「先輩・後輩とのつながりができる」が約60%以上で参加理由のトップとなっており、在学中から縦関係のコミュニケーションを重視していることがうかがえます。この傾向は、調査開始年から継続しています。

経年変化を見ると、「仲間がたくさんできる」という理由は平成3年度をピークに漸減傾向が続いており、「先輩・後輩とのつながりができる」との差が徐々に狭まってきています。すなわち、横よりも縦のつながりを求める傾向が出始めているようです。

図4-6-1 クラブ・サークルへの参加理由(平成27年度)

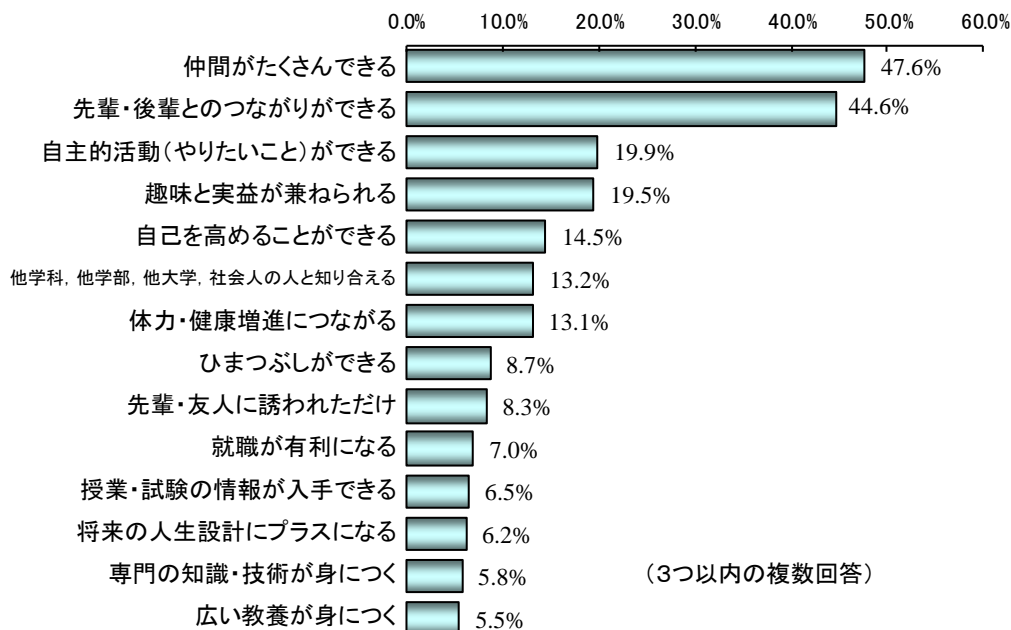
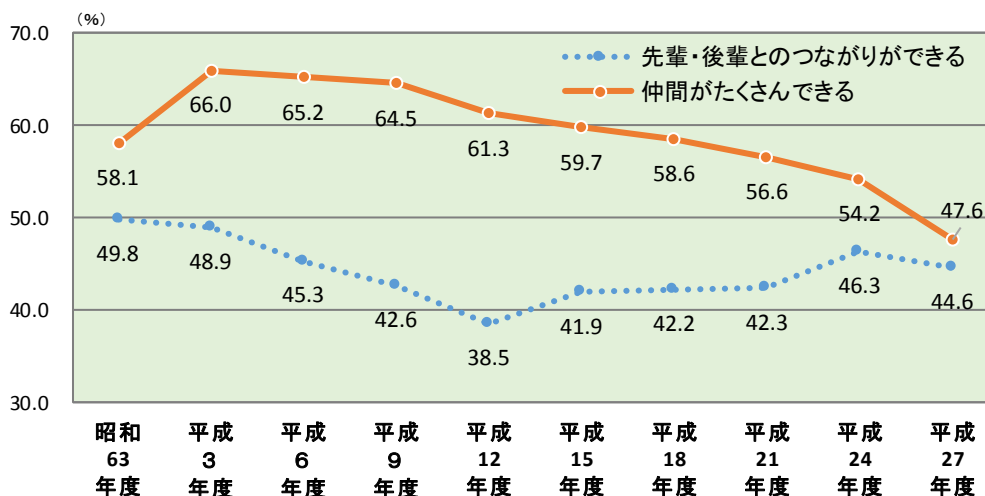


図4-6-2 クラブ・サークルへの参加理由(上位2項目)の経年変化



7. 課外活動への不参加理由

クラブ・サークルに参加しない理由のトップは「関心がない(なくなった)」。「アルバイト・通学等のため時間的に困難」は3年前より減少。無関心層が概ね増加傾向。

クラブ・サークルに参加しない学生の参加しない理由を見ると、「クラブ・サークルに関心がない(なくなった)」が22.4%でトップ、「アルバイト・通学等のため時間的に困難である(であった)」(17.1%)、「入りたいクラブ・サークルがない」(14.2%)が続いています。

経年変化を見ると、「入りたいクラブ・サークルがない」という理由は昭和63年度の19.2%から概ね減少傾向、一方で「クラブ・サークルに関心がない(なくなった)」は昭和63年度の14.1%から漸増傾向が見られ、無関心層が増加しているようです。「時間的に困難」は平成6年からほぼ毎回参加しない理由のトップでしたが、平成27年度は3年前より4.8ポイント減少し、「関心がない」を下回っています。

図4-7-1 クラブ・サークルへの不参加理由(平成27年度)

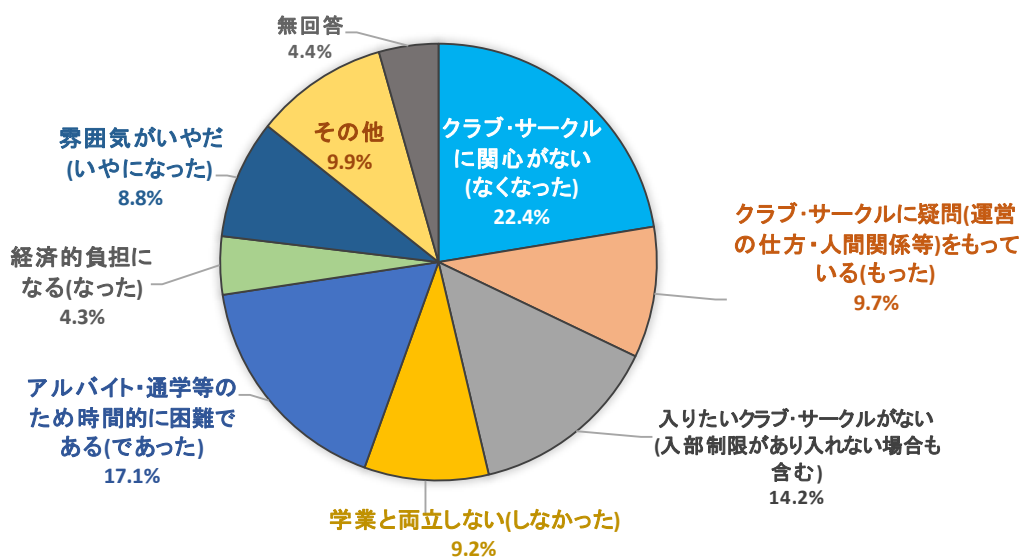


図4-7-2 クラブ・サークルへの不参加理由の経年変化

年度	入りたいクラブ・サークルがない		学業と両立しない	時間的に困難である	雰囲気がいやだ	その他/無回答		
	クラブ・サークルに関心がない	クラブ・サークルに疑問						
昭和63年度	14.1	14.1	19.2	6.1	18.3	5.7	10.3	12.2
平成3年度	17.5	13.7	18.4	7.6	14.8	5.2	11.8	11.0
平成6年度	14.7	13.8	16.7	6.4	18.0	5.0	12.4	13.0
平成9年度	16.6	13.0	17.8	5.7	19.7	3.4	11.7	12.1
平成12年度	17.0	11.1	16.1	7.5	20.2	5.9	10.0	12.2
平成15年度	17.0	10.1	16.7	10.4	21.9	4.1	8.5	11.3
平成18年度	17.9	9.3	14.7	12.1	22.8	4.0	7.3	11.9
平成21年度	21.7	8.9	12.8	12.2	20.9	5.0	6.8	11.7
平成24年度	20.3	8.7	12.8	10.9	21.9	5.3	6.3	13.8
平成27年度	22.4	9.7	14.2	9.2	17.1	4.3	8.8	14.3

8. NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率

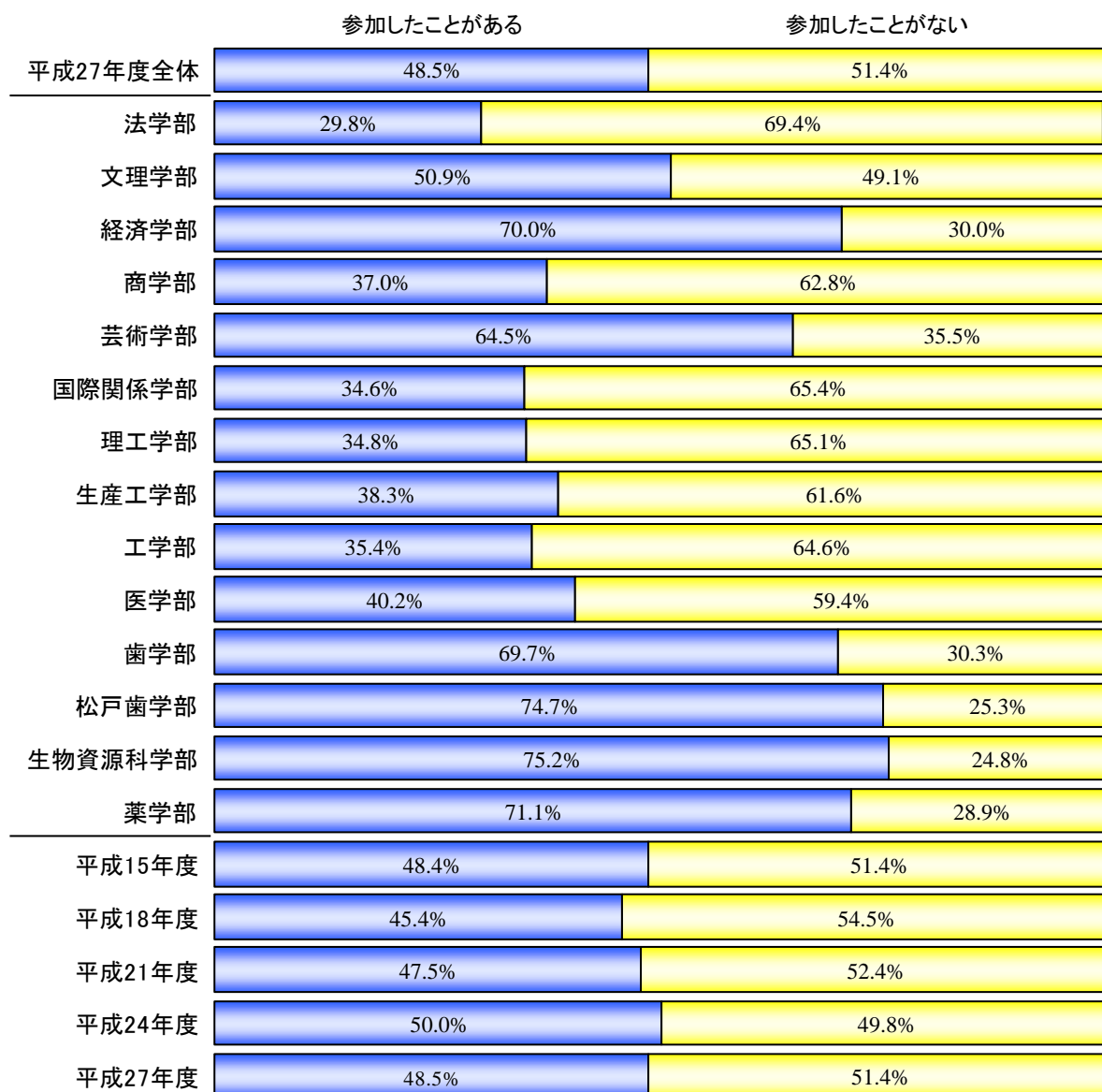
NU祭・学部祭・体育大会等の行事へ参加したことがある本学学生は半数弱。
3年前より僅かに減少。学部別に見ると、参加率は7割と3割の2極分化。

NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加について本学学生全体で見ると、「参加したことがある」が48.5%と半数を僅かに下回っています。

学部別に参加率を見ると、生物資源科学部・松戸歯学部・薬学部・経済学部・歯学部で約70%以上と高い一方、法学部・国際関係学部・理工学部・工学部では約35%以下と低く、2極化傾向が見られます。

経年変化を見ると、NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率は、平成18年度の45.4%から漸増傾向にありましたが、平成27年度は僅かに減少しています。

図4-8 NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率(平成27年度全体・学部別・経年変化)



9. 参加行事の種類と不参加理由

参加はキャンパスごとの「学部祭」が主であり，学部の「体育大会」が続く。「NU祭」の参加率は3年前より上向く。

参加行事について見ると，「学部祭（学部行事）」が68.7%で最も高く，「体育大会（学部行事）」が32.4%が続いています。学部ごとにキャンパスが分かれているため学部や学科，クラス・ゼミの行事への参加が中心になっており，「NU祭」や「日本大学体育大会」といった本学全体の行事はそれぞれ10%未満にとどまっています。

経年変化を見ると，「学部祭」の参加率は平成21年度の76.2%から減少傾向が見られます。「NU祭」の参加率は，平成18年度から減少傾向にありましたが，3年前より若干増加しています。

不参加理由としては，「興味がない」が30.8%で最も高くなっています。「暇がない」（10.5%），「面倒である」（5.4%），「アルバイトで忙しい」（3.8%），「つまらない」（3.7%）等，後ろ向きな理由は様々です。

図4-9-1 参加行事(平成27年度)

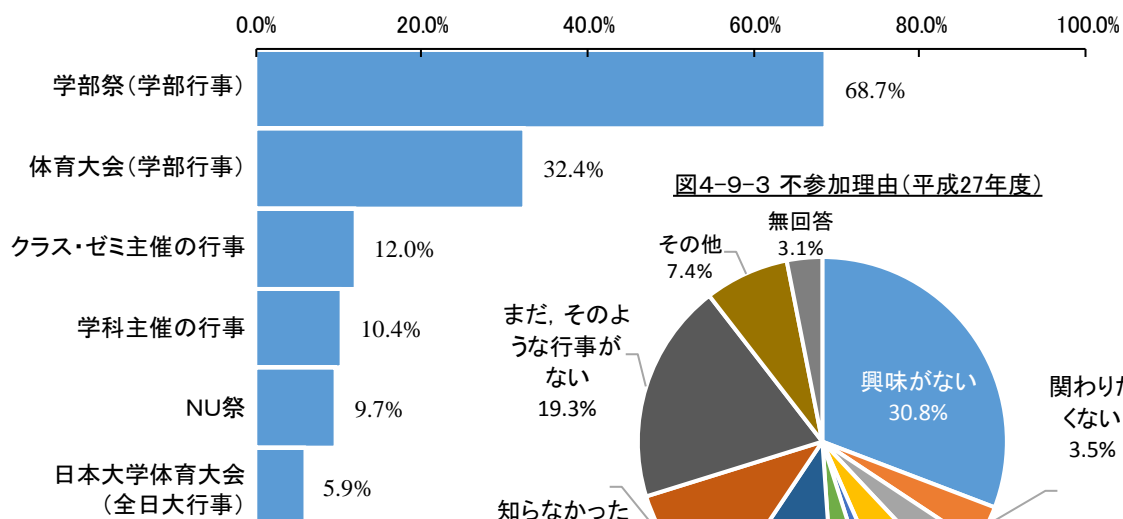


図4-9-3 不参加理由(平成27年度)

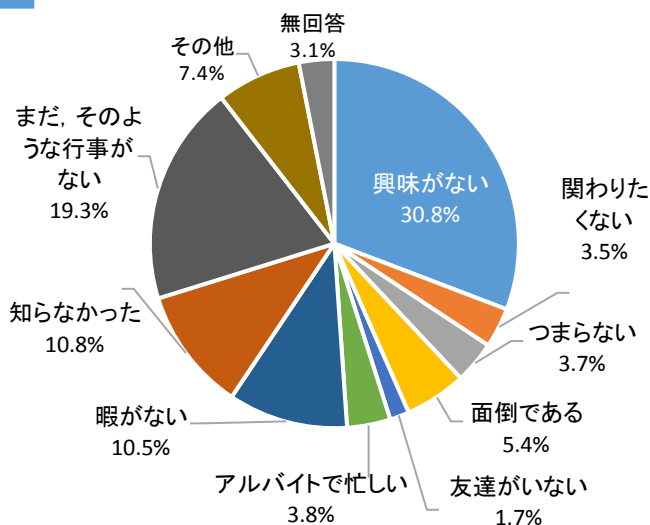
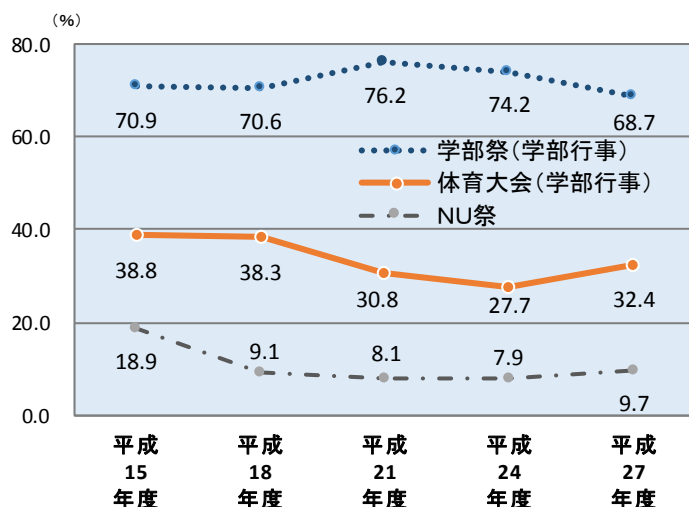


図4-9-2 参加行事の主なものの経年変化



10. 参加したい学部間交流を図る行事

学部間交流行事は、「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が6年前からトップ。文化的な催しやスポーツによる交流を支持する傾向が続く。

本学学生全体で見ると、学部間の交流行事として参加したい行事は「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が21.2%でトップ。「映画祭」(19.1%)、「音楽祭」(17.7%)、「学部対抗のスポーツ競技会」(16.6%)、「一同に集まる全日大運動会」(13.5%)の順で続いています。「講演会」は6.2%、「学部対抗の学術文化コンクール」は3.8%にとどまっております。学術的で硬派な行事より文化的な催しやスポーツによる学部間の交流を望む学生が多いことがうかがえます。「一同に集まる全日大文化フェスティバル」は医学部・国際関係学部・文理学部等9学部で、「映画祭」は芸術学部・経済学部と工学系学部の5学部で、それぞれ20%以上の学生が支持しています。

経年変化を見ると、12年前の「映画祭」に代わり、6年前の平成21年度から「全日大文化フェスティバル」がトップになっています。

図4-10-1 参加したい学部間交流を図る行事(平成27年度全体)

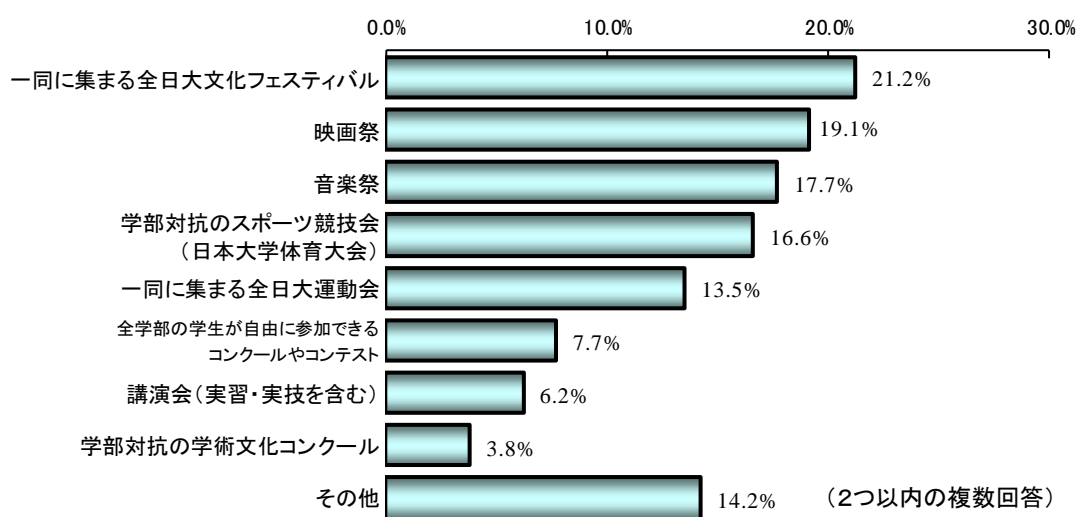


図4-10-2 参加したい学部間交流を図る行事(上位4項目)の経年変化

